

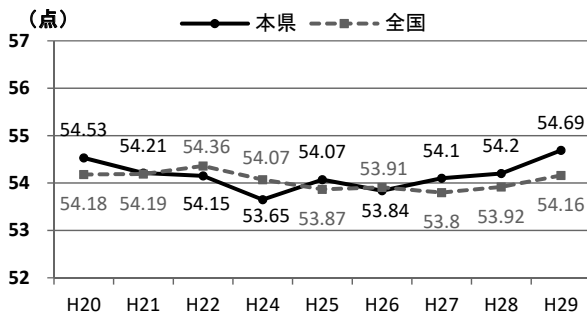
(2) 体力の向上・健康づくり

現状と課題

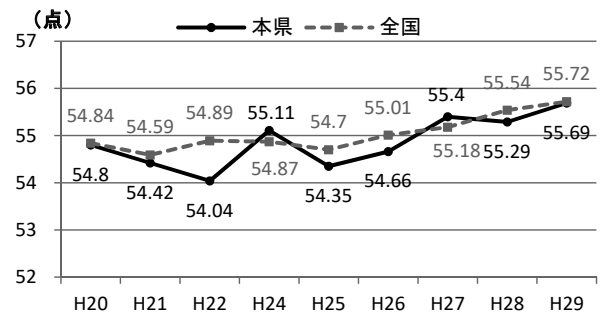
- 少子化や都市化などの影響により、子どもにとって遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間が少ないなど、外で体を動かして遊ぶ機会が少なくなっており、体を使った遊びが楽しいものだと実感できる機会が不足しています。また、学校単位での運動部活動が困難な地域も生じています。
- 本県の子どもの体力を全国平均と比べると、女子が低い水準にあることや積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化が課題となっています。
- 現在、朝食をほとんど食べていない児童生徒の割合が3～5%程度で固定化し、生活スタイルや社会情勢の変化から、ひとり又は子どもだけで食事をする状況も多く見受けられます。学校教育全体で食育に取り組むとともに、保護者や近い将来保護者になる若い世代の食への関心を高めるため、家庭、地域、関係機関・団体などと連携した取組が必要となっています。
- 未成年者の喫煙や飲酒、薬物乱用による健康への影響は大きく、急性疾患や肺がん、急性アルコール中毒や脳の神経細胞への影響があるとされており、健康についての正しい知識や規範意識を身に付ける必要があります。

図3-(2)-① 児童生徒の体力合計点(平均)の推移

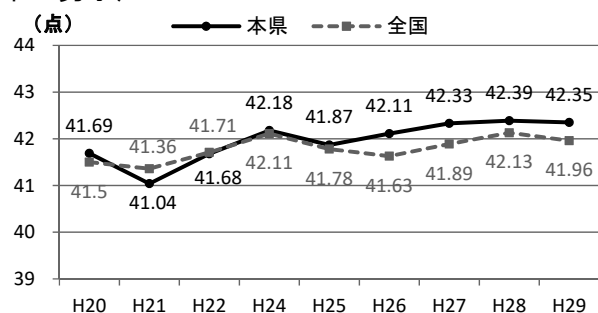
〈小5男子〉



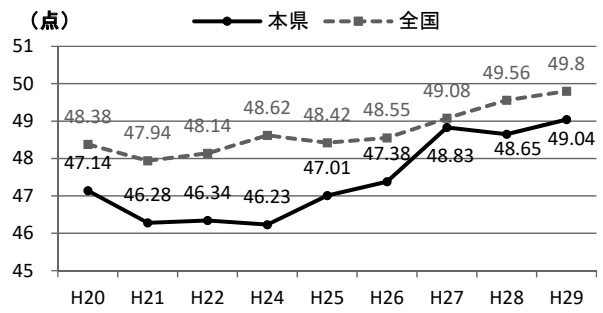
〈小5女子〉



〈中2男子〉

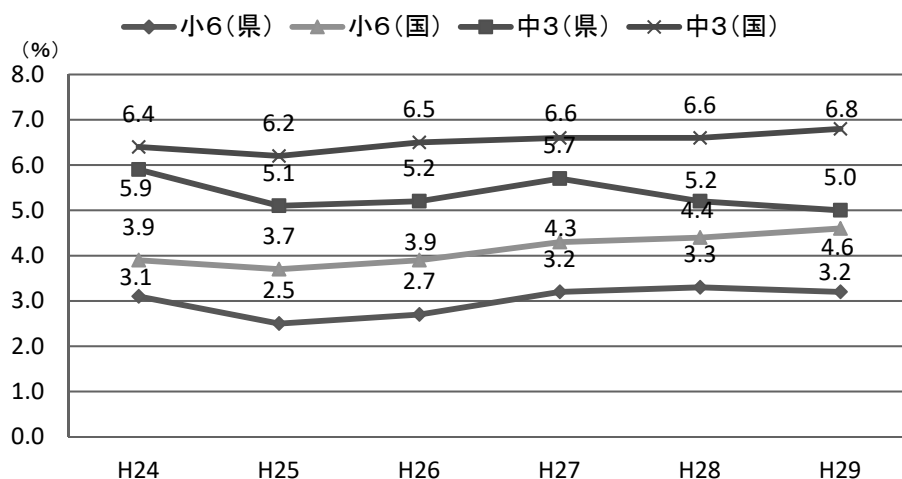


〈中2女子〉



スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

図3-(2)-② 朝食を欠食する児童生徒の割合



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

目指す成果

- ◆ 子どもたちが運動に関する知識や技能を身に付け、運動をする楽しさや喜びを実感できる環境を作るとともに、子どもたちの体力の向上を図ります。
- ◆ 学校における健康教育・食育が一層推進され、児童生徒が食と健康に関する正しい知識を身に付け、健康の大切さを主体的に考えられるようにします。

主な施策の展開

子どもたちの体力の向上・健康づくりを推進するために、次のような取組を進めます。

① 幼児期からの運動の習慣化

- いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよう、幼稚園・保育所・認定こども園等、家庭や地域等で行う運動遊びの取組を支援します。
- 幼児期から中学生期までの成長段階に応じて作成した長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所・認定こども園等、学校、家庭や地域のクラブ等で実践されるように推進します。

② 学校体育・運動部活動等の充実

- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会開催機運の盛り上がりを活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。
- 運動の楽しさが実感できる授業づくりを推進します。
- 生徒の多様なニーズや部員数の減少等に対応するため、部活動指導員の導入、複数種目を総合した総合部活動や複数校による合同部活動等、地域の実情に合った運動部



学校体育の授業風景

活動の体制づくりの推進を支援します。

③ 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実

- 学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身に付いていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、すべての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。

④ 健康保持増進、健康教育、食育推進

- 児童生徒の心身の健康を保持増進するため、定期健康診断を実施し疾病の早期発見・早期対応に努めるとともに、学校医や専門医等と連携して、適切な保健管理を行います。
- 子どもたちが健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動がとれるよう、がん教育などの健康教育を推進します。
- 未成年者が喫煙、飲酒、薬物乱用による弊害等の必要な知識の習得ができるよう、学校関係者や児童生徒への喫煙、飲酒、薬物乱用を防止するための講習会等の実施、保護者、地域への継続的な普及啓発を行います。
- 夜間定時制高等学校で学ぶ生徒の健康の保持増進を図るため、夜間の学習時間に夜間給食を実施します。
- 子どもたちが望ましい食習慣を身に付け、心身ともに健やかに成長できるよう、幼稚園・保育所・認定こども園等において子どもたちの食に対する関心を高めます。
- 学校長のリーダーシップのもと、食育推進の中核となる栄養教諭を中心に家庭や地域と連携し、チーム学校で計画的に食育推進に取り組みます。
- 学校給食を教科等における食育の生きた教材として活用するため、献立内容を充実させるとともに、地域の生産者や関係機関・団体等と連携して地場産物の活用や地域の実情に応じた創意工夫を行い、農産物の生産や食に係る産業等への理解を深め、地域の自然や食に対する感謝の心及び健全な心身を育む取組を進めます。



食育の授業風景

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
運動やスポーツをすることが好きな子ども（中学生女子）の割合	78.7% (2017 年度)	80.0% (2022 年度)	スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子ども（中学生女子）の割合	23.6% (2017 年度)	20.0%以下 (2022 年度)	スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
朝食を欠食する児童（小6）の割合	3.2% (2017 年度)	現状以下 (2022 年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」
朝食を欠食する生徒（中3）の割合	5.0% (2017 年度)	現状以下 (2022 年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する2023年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点（数値）	50.4点 (2017 年度)	子どもの体力・運動能力が上昇していくこと	スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点（全国順位）	23位 (2017 年度)	子どもの体力・運動能力が上昇していくこと	スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」